Ⅳ　通 学 高 等 部

１　はじめに

通学高等部は昭和６３年の開設以来、地域の中学校を卒業した軽度知的障害のある生徒に対し、将来の自立と社会参加を　めざす教育を進めてきた。本校生徒における社会参加とは、卒業後の企業就労をめざすことであるが、その力をつけるために、具体的な体験を通して学ぶ教育課程を設定している。

本学部では作業学習を教育課程の軸に置き、産業現場における実習や販売学習等を相互に関連づけながら職業生活をおくる上での基本的な能力の育成を図ってきた。また、卒業後の社会生活で求められる基礎的な学力についても、教科学習の内容を実生活や就労現場と結びつけたものにするなど、指導内容の精選にも取り組んできた。その結果、卒業生の企業への就労は約９０％にのぼり、定着率もきわめて高く、就労先からも高い評価をいただいている。

通学高等部では、以下のような５つの指導のねらいを持って教育課程を編成し、生徒の自立と社会参加の達成を目ざす教育を進めている。

⑴ 基礎学力の伸長を図る。

通学高等部における基礎学力とは、将来の就労や社会生活を営んでいくにあたって必要な力を指し、生徒の個別の実態や課題に即しながら指導を具体的に行っている。各教科の指導や作業学習（教科領域を合わせた指導）では具体的操作や実体験の中で理解できる内容を盛り込むことで、生徒の理解を深める指導を行っている。

⑵ 強健な体力と根気を養う。

卒業後、継続して働き続けるためには、心身の健康を保持することが重要である。本学部では教科指導や作業学習をはじめ、様々な活動場面で体力の育成を図り、その過程の中で根気強さや忍耐力が育つよう指導を行っている。また、スポーツや文化的な行事・体験に数多く参加することで、自らの力を最大限発揮させ、充実感や達成感が感じられるように指導している。

⑶ 自主的な意欲・態度を養う。

卒業後の自立的な生活には「身辺生活の自立」「職業生活の自立」「経済生活の自立」「精神面の自立」などの力が必要である。本学部ではこれらの力を作業学習をはじめ、あらゆる場面で育成することを目指している。その指導の中では自己を深く見つめ、自らの役割を自覚し積極的に社会に関わっていこうとする意欲を培っている。

⑷ コミュニケーション力を高め、豊かな人格を育成する。

コミュニケーション力は人間関係を構築するにあたっての重要な能力である。本学部の教育でも教科学習や学級活動など、あらゆる機会を通じて、その育成に努めている。また、将来の社会自立に向けて、豊かな生活が送れるための基本的な経験を積み上げることを目指している。

⑸ 職業人・社会人・家庭人としての基本的な資質・能力を高める。

卒業後は学校という環境を離れ、地域社会や企業、家庭の中で自立した生活を営む。その際に重要な資質としては、正しい職業観や家庭人としてのあり方について、真剣に向き合いながら考えていこうとする力が必要である。本学部の教育課程で学ぶことにより、このような全人的な成長が図られることを、目指している。

２　教育課程

(1) 教育課程の構造

通学高等部の教育課程は社会自立を目指す生徒の育成というねらいを持って構成され、全ての教育活動が相互につながりを持ちながら統合的に進められている。生徒個々の実態や課題を明らかにしながら、ＨＲ活動や自立活動、職業指導の中で定着を図っている。このことは、将来の社会的自立にも関わって、基礎的で重要な力となる。これらの指導は「衣・食・住」を含めた生活の基盤となる家庭との連携・協力のもとに指導を進めている。

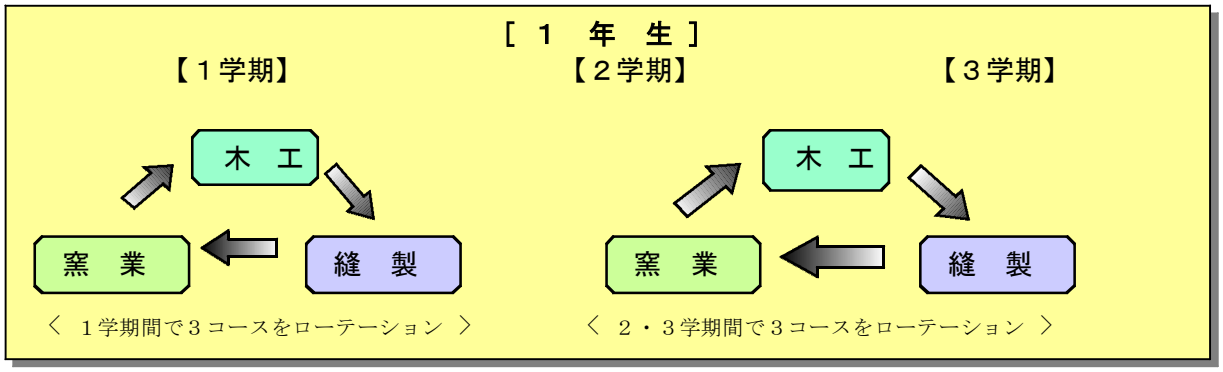
(ｱ) 職業教育

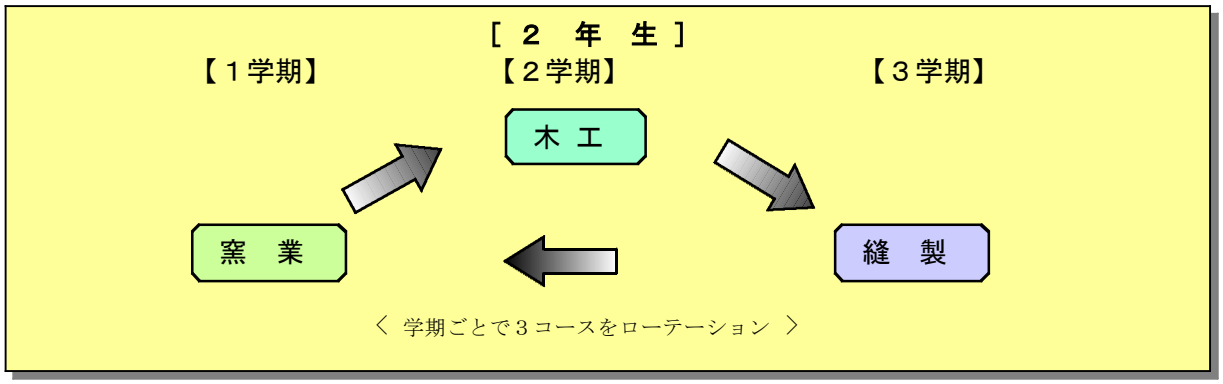
a 作業学習

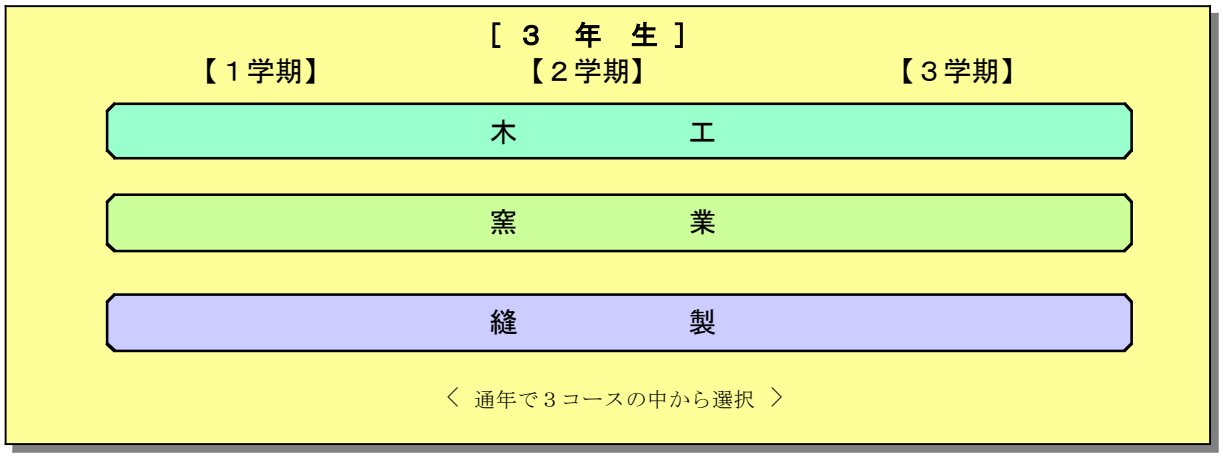
作業学習は木工・窯業・縫製の３つのコースで構成されており、生徒達に具体的作業を通して自分自身ができること、できないことに向き合わせ、将来の社会参加に向けて必要な能力を身につけさせることをねらっている。

＜ 各学年の活動イメージ ＞

各学年の生徒を３グループに分け、各コースを履修する。



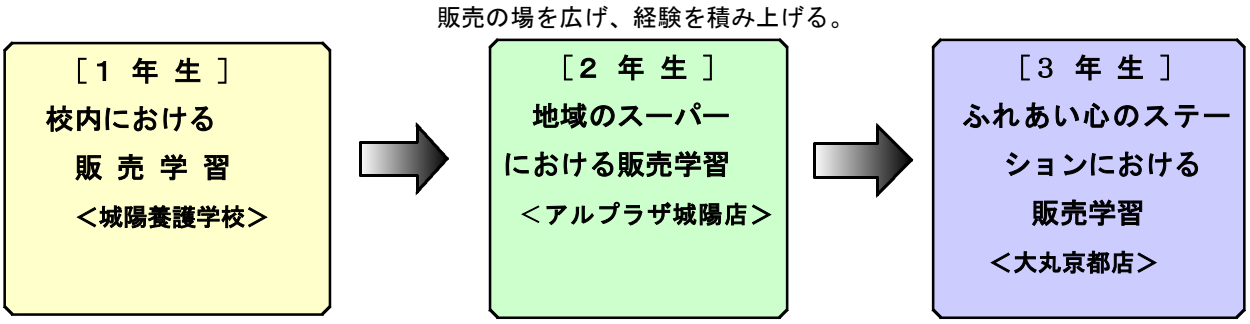




ｂ販売学習

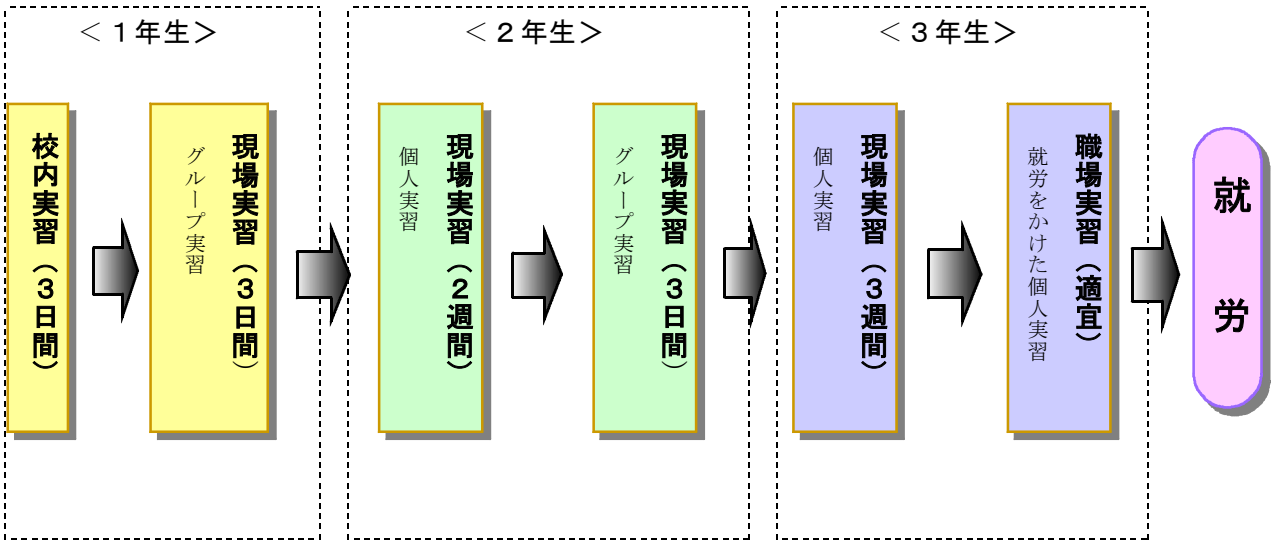
販売学習は作業学習において製作した製品を生徒自ら販売することにより、生産から販売という流れを実感的に理解することをねらっている。販売学習により製品の品質に目を向けことにつながったり、接客を体験することにより、サービスの意味やコミュニケーションの取り方などを理解することを目指している。そして、販売学習での体験が平素の作業学習や教科学習へフィードバックされ意欲の向上につながっている。

＜ 各学年の販売学習の流れ ＞



ｃ産業現場等における実習

「校内実習」から「産業現場等での実習」につながる一連の指導では、将来の就労をイメージさせ、働く意味や実際に働く際に必要になる力を体験的に理解させることをねらって設定している。実習を積み上げることにより、自己の課題に向き合い、自分の適性について解を深め就労につなげていくことを目指している。



(ｲ)教科教育

教科学習では、「職業生活に求められる必要事項」をもとに、作業学習や自立活動と相互に関連づけながら基本的事項を捉えさせるよう指導している。各教科で、実際の生活の場や就労の場面で必要になるであろう事項を、具体的な指導内容として盛り込み、結びつけながら定着させることを目指している。このことは生徒の自己判断力の育成や社会生活に必要な能力と態度の育成につながっている。

（2）教育課程表・週程表

学部方針

1　生涯学習・情報化・国際化社会に照らして、軽度知的障害のある生徒の自立と社会参加をめざす力の育成に努める。

2　生徒一人ひとりの障害の状況・発達段階・特性を的確にとらえ、達成感を持たせるとともに、社会生活の基礎基本と自己教育力及び豊かな人間性を育てる教育内容の充実を図る。

１年生

＜指導目標＞

1　早期に学校生活に慣れるとともに基本的生活習慣、規律を身につける。
2　生徒の実態に応じた教科等の指導により、基礎学力の充実、体力の向上、情操を育成する。
3　自律的な力、豊かな対人関係を養う。
4　作業学習等を通して、働く為の基礎的事項を身につける。

２年生

＜指導目標＞

1　自主性、主体性、規律性のある学校生活を送るとともに、地域・家庭においても生かせる資質や能力を養う。
2　生徒の実態に応じて、基礎学力の充実・応用、体力・情操の向上を図る。
3　作業学習、産業現場等における実習を通して、職業観を育成する。

３年生

＜指導目標＞

1　職業人・社会人・家庭人としての基本的な資質や能力を養う。
2　生徒の実態に応じて、社会生活に移行していくための、学力・体力・情操を育成する。
3　希望する進路をめざして、働く意欲・態度を育成する。

教育課程表

教科・領域及び領域・教科を合わせた指導の配当時間	教科	国語	１０２
		社会	３４
		数学	６８
		理科	３４
		音楽	６８
		美術	６８
		保健体育	６８
		職業	６８
		家庭	
		情報	３４
	選択	英語	３４
	領域・教科を合わせた指導	作業学習	３４２
		日常生活の指導	３４
	道徳	※ 職業家庭、作業学習、特活の中で指導する。	
	特別活動	ＨＲ等	３４
	自立活動		３４
総合的な学習の時間			３４

１年生	２年生	３年生
年間総授業日数　１９８日	年間総授業日数　１９８日	年間総授業日数　１９１日
年間総授業時数　１０５７時間	年間総授業時数　１０５７時間	年間総授業時数　１０３２時間

週程表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	日常生活の指導				
１校時	作業学習	作業学習＜９時間＞	社会＜１時間＞	音楽	自立＜１時間＞
１校時			数学	音楽＜２時間＞	職業
１校時			数学＜２時間＞	美術	職業＜２時間＞
昼食・休憩					
清掃					
１校時	作業学習	国語	理科＜１時間＞	美術＜２時間＞	情報＜１時間＞
１校時		国語	英語＜１時間＞	体育	特別活動＜１時間＞
１校時		国語＜３時間＞		体育＜２時間＞	総合的な学習の時間
部活動・補充	部活動	補充	部活動	補充	部活動